

【Ta:ra】ターラ

【Ta:ra】ターラ

古代インドで、経文などの書写材料に使われていた「ターラ」という木の葉から。

Case Study ● オーストラリア（西豪州）の植林事業

FAQ ● 社長インタビュー

Column ● 山口県岩国工場のCSRへの取り組み

● 紙のライフサイクルと環境影響（インプット/アウトプット）について

● 日本製紙グループの紙・パルプ事業

日本製紙グループ

CSRコミュニケーション誌

Vol.1

Case Study



オーストラリア（西豪州）の植林事業

持続可能な原料調達をめざす日本製紙グループ。

第一回目は、西豪州WAPRES社の地域の文化・風土に根ざした植林事業を紹介します。

WA PLANTATION RESOURCES

WAPRES社の概要
プランテーション リソースズ
WA Plantation Resources Pty. Ltd.
西豪州最大の製紙用木材チップの生産・販売会社であり、2000年に丸紅（株）が買収し、2002年からは日本製紙も資本参加しています。約30,000haにも及ぶユーカリの植林を所有・管理しており、1976年から日本向けにユーカリチップを輸出してきた実績があります。

西豪州 (Western Australia)
ワープレス
WA Plantation Resources (WAPRES)

日本製紙グループでは、グループ環境憲章に掲げている「自然と調和する持続可能な企業活動を基本とし、長期的な視野に立って循環型社会の形成と地球規模での環境保護をめざした活動に取り組みます。」という基本理念のもと、チリ、南アフリカ、オーストラリアなどで海外植林事業を行っています。中でも最大の植林面積を誇るのがWAPRES社です。WAPRES社はオーストラリアの西豪州においてユーカリ植林およびチップ輸出の一貫事業を行っています。今回はWAPRES社の現地での植林事業について紹介します。



WAPRES社 植林部長
Richard Breidahl 氏

自ら木を育てて収穫しています

日本製紙グループが推し進めている植林活動が、ここオーストラリアをはじめ、世界数カ国で行って

植林作業は最初の1年が肝心です

オーストラリアで実際に行っている植林作業について説明します。オーストラリアは日本と違って南半球にありますから、まず夏の1～3月にかけて整地作業を行い、植林予定地内の枯木・倒木や柵などをきれいに整えます。次に雨季に入って地面が柔らかくなる4～5月になるとトラクターで土を掻き起こし、畝（注1）を作り、降雨が本格化する6～8月には植栽作業が行われます。9～12月は夏の日差しを浴びて、苗がすくすくと育ちますが、植えたばかりの苗は害虫や病気の被害を受ける恐れがあります。そのため、この時期は定期的に従業員が巡回して苗の保守作業を行わなければなりません。

森林認証の取得をめざします

近年、地球規模での森林減少や違法伐採といった森林破壊が大きな社会問題となっています。そこで、世界の各国・地域において森林認証制度が創設・運用されています。これは、持続可能な森林経営が維持されているか否かを第三者機関が評価す

りました（注4）。一方、事業を展開する地域の文化を尊重するとともに、遺跡保護の重要性に高い関心を持ち、地域の自治体や遺跡保護団体と対話・コミュニケーションの場を設けています。そのため、従業員が地域文化や遺跡などの地域財産を尊重しながら仕事に従事できるよう、それらに対する知識向上や意識啓発のための研修プログラムの開発を進めています。

水質調査プログラム活動が評価されました

2003年、Blackwood River（注5）の「Blackwood水質調査プログラム」活動（注6）が評価され、全国大会で豪州連邦政府首相賞最優秀賞を受賞しました。この賞は、地域社会と一体となって、優れた社会貢献活動を行っていることを認められる企業に贈



いる「Tree Farm構想」です。この構想は、畑で作物を育て収穫するように、紙の主原料となる広葉樹を自らの手で植え、育てます。そして成長量分のみを収穫・利用することで、持続可能な森林経営を実現しています。10年で成木になる、非常に成長の早い樹種であるユーカリを例に取ってみましょう。まず、土地を11等分して、1年ごとに順番に苗を植



えます。すると10年目には最初に苗を植えた土地の木が伐採できます。そして翌年、10年目になる別の土地の木を伐採します。この作業を繰り返すことにより、常に一定の樹木量を保つことができ、持続可能な森林経営が可能になるのです。

る制度です。WAPRES社は、まず2003年にISO14001(注2)を取得しました。現在はAFS(注3)の取得をめざしています。

従業員の労働安全衛生と地域文化の尊重・保護に努めています

WAPRES社では、すべての従業員に対して安全な作業の実施・危険の確認と被害の未然防止・管理基準の徹底に努めており、安全で健全な就業環境の提供を保証しています。また、労働安全研修や操業マニュアルの配布、人間工学に基づく快適な作業環境づくりを重要事項と位置づけて取り組んできた結果、各操業部門での無事故連続操業時間の実績は特筆すべきものとな



WAPRES社 労働安全担当者
Wayne Hammond 氏

られる賞です。

WAPRES社は「環境との共生」「地域に根ざした社会貢献活動」を基本理念に掲げ、より良い地域づくりに貢献していけるよう、地域の一員として誠実に努力しています。



- 注1: 木を植えるため、細長く直線状に土を盛り上げたところ。
- 注2: 企業などが、環境マネジメントシステムを構築するために必要な要求事項を規定した国際規格。
- 注3: Australian Forestry Standard, オーストラリア独自の森林認証。2004年10月29日に世界最大の森林認証PEFCとの相互認証が認められた。
- 注4: 無事故連続操業時間の実績(2004年5月現在)。
 - ダイヤモンド・チップ工場 227,000時間
 - パンパリー港積出設備 65,500時間
 - 植林地での植栽、管理 63,384時間
- 注5: 西豪州の南西地区を流れる川。
- 注6: 1991年に、この川の水質問題を心配する地元住民の要請に応えることからスタートし、その後WAPRES社からは常勤のコーディネーターを配置するとともに、水質検査の器具・薬品の提供から検査方法・データづくりの指導など、さまざまなサポート活動を行ってきている。

FAQ



株式会社日本製紙グループ本社
代表取締役社長

三好孝考

日本製紙グループでは、環境保全活動にどのように取り組んで来られましたか?

製紙業は、多くの資源とエネルギーを必要とします。そのため、日本製紙グループ本社傘下の日本製紙と日本大昭和板紙は、従来から製紙業が環境に与える影響の大きさを十分に考慮し、環境との共生を意識した経営に努めてまいりました。

ご存知のように紙の主原料は木材と古紙です。中でも自然の恵みである木材は、海外植林事業を展開することにより持続的な生産活動を行い、安定した原料供給と森林資源の保護育成を促進してきました。また、原料に使用済みの古紙を利用することで、資源の有効活用と紙ゴミの減量化にも繋げてきました。これらの活動は、現在「植林面積10万ha」「新聞用紙への古紙使用率75

%」など、より具体的に目に見える形で数値目標化し、厳しく自社管理しています。

CSR委員会を設置されましたね?

環境への対応という側面で業界をリードしてきた日本製紙グループですが、環境保全活動を一層広げるため、また「経済面」「環境面」のみならず「社会面」での取り組みをグループ丸となってより深く追求するために、2003年10月、CSR委員会を設置しました。

同委員会では、「企業倫理」「社会貢献」「安全防災」「原材料」「製品安全」「環境」という6つの分科委員会を設置し、それぞれ理念・方針を制定しています。このように各委員会はグループの持続的成長に向け、6つの視点でグループを横断的に管理し、バランスの取れた経営を行うための取り組みを進めています。

本誌はどのような目的で発行されたのですか?

環境・社会問題が注目され、とりわけ企業の社会的責任という言葉が重みを増している今日、当社ではこうした経営情報を広く開示すること、またステークホルダーの皆さまと相互に意思疎通を行うことの重要性を痛感しています。たとえ会社が立派な環境社会活動を行っていても、世間に知られることがなければ評価を得ることはで

きません。また、ステークホルダーの皆さまのご意見をより良い経営に繋げ、企業と社会が互いにさらなる発展をめざしていくには、コミュニケーションを通じ相互に理解・協力し、高め合おうとする姿勢が必要です。

本誌の名称「Ta:ra」とはどのような意味ですか?

このCSRコミュニケーション誌「Ta:ra」は、当社の環境や社会に対する取り組みをわかりやすく紹介するとともに、皆さまのご意見・ご要望に応じるコミュニケーションツールとして活用することを目的に発行いたしました。ちなみに「Ta:ra」とは、古代インドで経文などの書写材料として用いられた木の葉のこと。いわば機能的には紙のルーツとも言える、いにしへの素材です。私たちはこの「Ta:ra」になぞらえ、紙の生産に携わる一企業として、地球環境の保全や国際社会、地域社会の持続的な発展にどう貢献することができるか、今一度、「原点」に立ち返ることで最善の道を模索し、理想的な未来図を描きたい——その思いから本誌のタイトルを名付けました。

日本製紙グループでは、読者の皆さまとの円滑なコミュニケーションを図るため、当社の環境・社会活動に関するご質問をお待ちしております。いただいたご質問は今後、FAQで回答してまいりますので、FAXまたはEメールにてご送信ください。

Contact Information

● 問い合わせ先

● 会社名 株式会社日本製紙グループ本社 CSR室
● 本社 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-12-1 (新有楽町ビル)
TEL: 03-3218-9321 FAX: 03-3216-1366 E-mail: env@np-g.co.jp
ホームページ <http://www.np-g.com/inquire/> (お問い合わせ)
<http://www.np-g.com/appliform/> (資料請求)

※当社では、環境・社会報告書の詳細版を発行しております。
ご希望の方は上記の窓口までお問い合わせください。



山口県岩国工場のCSRへの取り組み

—最近のトピックス—



●敷地面積
1,073千㎡
●従業員数(2004年3月現在)
587名
●生産量(2003年度実績)
紙.....66万t/年
販売パルプ他.....8万t/年
1999年11月
ISO14001認証取得

日本製紙(株)岩国工場は、日本製紙グループの「行動憲章・行動規範」および「環境憲章」に基づき、将来にわたり地域に信頼される安全保安・環境保全に取り組み、これらの安全環境情報の積極的かつ公正な開示と地域社会への貢献を行っています。

● 自社植林木チップ船初入港

日本製紙グループが最初に手がけた海外植林事業は、住友商事(株)をパートナーとしてチリに設立した「ヴォルテラ社」です。1992年から、成長が早くパルプ化に適したユーカリの植付けを開始し、2001年末には目標面積の13,500haの植林地造成を完了しました。その後、2002年9月から一部の伐採を開始し、チップ加工・船積みを経て、2003年4月10日に第1船がチリを出港、約1カ月後の5月11日に岩国工場に到着し29,300トンを陸揚げしました。

岩国工場では、使用する広葉樹チップは全て海外からの輸入であり、その約8割は植林木チップです。今後は、自社植林木チップを増やし、持続的かつ環境に負荷を与えない原料調達を実践していきます。

● 最終処分量0.01%に向け推進中

岩国工場では、1995年度から「ゼロ・ディスチャージ運動」を展開していました。「ゼロ・ディスチャージ運動」とは、産業廃棄物の発生量抑制や有効利用により、最終処分量を重量比で製品生産高の0.1%以下にすることを目的としたものです。そこで、抜本的な発生源対策や製品歩留りの向上による廃棄物削減、さらに焼却灰のセメント原料への活用等を積極的に進め、1999年度には目標の0.1%以下を達成しました。

現在では、さらに1ランク上の「0.01%」を目標に活動を続けており、本年度下期にはこの「0.01%」以下まで削減できる見込みです。今後とも継続してこれを維持し、また廃棄物のリサイクルによる有効活用を促進するため、一層の努力を続けていきます。

CSRコミュニケーション

● 環境安全説明会の開催

岩国工場と関係会社の日本製紙ケミカル(株)岩国事業所では、2004年9月に第2回環境安全説明会を開催し、工場周辺自治会および行政の方々にご参加いただきました。同工場では、地域住民・行政に対し、工場の環境保全と安全保安に関する情報開示を目的に、昨年より環境安全説明会を開始しています。

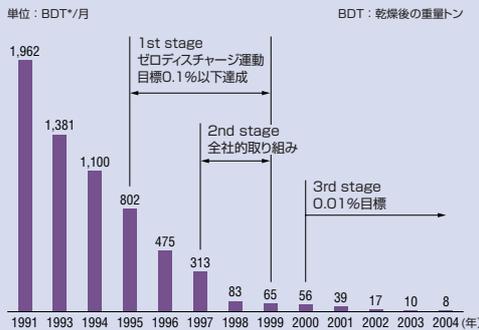
まず、主要生産設備と環境設備の見学会を実施し、その後PRTR(注)等の環境データや環境・安全への取り組み状況を説明しました。その後活発な質疑応答が行われ、地域住民・行政との信頼関係や理解を一層深めることができました。

今後も定期的にこの説明会を開催するとともに、積極的に情報開示を行い、地域とのより良いコミュニケーションを築いてまいります。

注：Pollutant Release and Transfer Register、化学物質排出移動量届出制度。有害性のある化学物質が、どの発生源から、どれほど環境中に排出されたか、また廃棄物に含まれて事業所の外にどれほど運び出されたかというデータを把握し、集計し、公表するしくみ。



最終処分量の削減



岩国工場専用停泊所にて荷降ろし作業中のチップ船

● 紙のライフサイクルと環境影響 (インプット/アウトプット) について

紙は、木材や古紙を原料としたパルプから作られ、新聞や雑誌、紙容器などの製品として届けられます。日本製紙グループでは、原料の調達からパルプ・紙の製造、全国の配送基地への輸送までを担っています。





●日本製紙グループの紙・パルプ事業

紙の安定供給を通じて広く社会に貢献すること——それが日本製紙グループの使命です。
 当社では、お客さまのニーズにきめ細かくお応えるために、バラエティ豊かな製品を提供しています。

洋紙

洋紙事業は日本製紙グループのコア事業です。新聞用紙・印刷出版用紙・情報用紙は国内シェア第1位(2003年実績)を誇っています。

新聞用紙

新聞用紙、高白新聞用紙



印刷出版用紙

上質紙、書籍用紙、中質紙、教科書用紙、グラビア用紙、
 インディアペーパー、微塗工紙、コート紙、
 キャストコート紙、色上質紙、はがき用紙



情報用紙

CCP®(ノンカーボン紙)、ポストイーノ、
 フォーム用紙、PPC用紙、感熱紙、インクジェット用紙、
 オーバー®、ウェイビーウェイビー®、
 ジャンタック、熱転写用紙



産業用紙

包装用紙：片艶クラフト紙、半艶クラフト紙、晒クラフト紙、グラシン紙
 加工用紙：シール用原紙、はく離紙用原紙、工程紙原紙、
 紙カップ原紙、食品容器原紙、壁紙原紙、積層板原紙、金属合紙



板紙

日本大昭和板紙(株)がメインに取り扱う「板紙」は、低コストで
 軽量な輸送用梱包材として、豊かな社会づくりに貢献しています。

段ボール原紙

Kライナー、耐水Kライナー、
 撥水Kライナー、白ライナー、
 Jライナー、中芯、強化中芯



白板紙

高級白板紙、
 特殊白板紙、
 コート白ボール



家庭紙

ティシューの代名詞といえる2大ブランド「クリネックス®」と
 「スコッティ®」は(株)クレシアが製造・販売を行っています。



フェイシャルティシュー、トイレットティシュー、
 ペーパータオル、ウェットティシュー、
 アダルト・ケア製品、産業用ワイパー

Crossword Puzzle

右のクロスワードパズルを解き、□に入る文字を並べかえて
 答えを作ってください。正解者の中から抽選で20名の方
 に「トイレットペーパー「クレシア牛乳パック100」(8ロール)
 をプレゼントします。

●ヒント

木を育てるには、これから始めます。

●応募方法

官製ハガキに、クイズの答え、郵便番号、住所、氏名(フリガナ)、年齢、職業、電話番号、本誌を読んでのご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。ただし、お一人様1回のご応募とさせていただきます。本懸賞においていただいた個人情報は第三者に開示・提供することはありません。

●宛先

〒100-0006
 東京都千代田区有楽町1-12-1 新有楽町ビル
 株式会社日本製紙グループ本社 CSR室
 ターラ・プレゼント①係

●応募締め切り

平成17年1月31日(当日消印有効)

●当選発表

正解者多数の場合には抽選を行い、賞品の発送をもって発表にかさせていただきます。なお、賞品は2月中に発送する予定です。

タテのカギ

- ① 友人宅へ電話をかけたが、○○○中だった。
- ② 成り行き任せで、構わないこと。
- ③ ○○引きで順番を決める。
- ④ 供給の反対。
- ⑤ 木を植えるため、細長く直線状に土を盛り上げたところ。
- ⑥ 鯉を輪切りにして煮た味噌汁。
- ⑦ あれもこれもと欲しがる。
- ⑧ カカオの実をいって粉にしたものを溶かした飲み物。
- ⑨ 韓国の首都。
- ⑩ アイロンから吹き出る蒸気。
- ⑪ 頭隠して○○隠さず。
- ⑫ オーストラリアに住む有袋動物。
- ⑬ 餅の原料となる、木材から取り出した繊維。
- ⑭ 冬に空から降る、白く冷たいもの。
- ⑮ 九分九厘だめかと思ったが、なんとか○○拾った。
- ⑯ クオリティは、日本語で○○質。

ヨコのカギ

- ① 春には桜前線が○○○○○する。
- ② 樹木には針葉樹と○○○○○がある。
- ③ 日本製紙(株)の工場がある山口県の都市。
- ④ 鯉の反対。
- ⑤ 怪我をしたとき、傷口を保護するために貼るもの。
- ⑥ 病気を治すために飲むもの。
- ⑦ 餅とあずきあんが、おわんに入っている食べ物。
- ⑧ 10年で成木になる、オーストラリアを代表する木。
- ⑨ ピータンにするのは○○○の卵。
- ⑩ 韓国を代表する辛い漬物。
- ⑪ ダイハ、ハート、クラブ、スペード。

●クロスワードパズル●

	1	ツ		2	ホ	3	ク	4	ジ	5	ヨ	ウ
6	コ	ウ	7	ヨ	ウ	8	ジ	9	ユ			ネ
8	イ	ワ	ク	ニ				9	ヨ	10	コ	
	コ			11	バ	12	ン	13	ソ	ウ	コ	ウ
13	ク	14	ス	15	リ			ウ			ア	
				15	チ			16	シル	17	コ	パ
18	ユ	19	ー	20	カリ			21	ア	22	ヒ	ル
22	キ	ム	チ					23	ト	ラ	ン	プ

※本パズルの解答は2月中に当社ウェブサイトに掲載します。